

平成27年度「岐阜県ふるさと教育表彰」実践報告書

市町村名	可児市	学校名	可児市立東明小学校			
校長名	山口 彰	対象学年	全学年	人数	285人	
活動名	「美濃桃山陶の聖地」に学ぶ ～陶芸と茶の湯体験を核に～		時間数	低：10 中：70時間 高学年：70時間	継続年数	21年
題材	① 自然環境（山野・河川・動物・植物・その他） [] ② 歴史（出来事・史跡・先人・その他） [荒川豊蔵 豊蔵資料館] ③ 文化（芸能・芸術・民話・風習・その他） [志野焼き、茶の湯] ④ 地場産業（農業・水産業・伝統工芸・その他） [米作り、感謝の会] ⑤ 絆を深め、よりよいふるさとをつくる活動 [お茶会、陶芸展、感謝の会、福寿苑] ⑥ その他（中学校区幼保小中、公民館 JA連携） [手作り花瓶贈呈、出張作品展]					
複数年継続するための工夫改善	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画を定期的に見直しながら無理なく効果的に教育課程に位置付けている。 ・ふるさと教育担当者を位置付けて地域講師や関連施設との円滑な連携を推進している。 ・地域に学ぶと共に学んだことを活かし地域に貢献する双方向のふるさと教育に努める。 					
<p>1 ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校区の特徴である陶芸と茶の湯体験を核に、地域に暮らす様々な人々との関わりを深めながら、地域の自然・歴史・伝統文化等を学ぶ事により、ふるさとへの誇りと愛着を育む。 <p>2 活動の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学年の教育課程に計画的に陶芸と茶の湯に関わる体験学習を位置付け、地域の陶芸家や茶道家、ボランティアの皆様の指導の下に6年間を通じた地域ぐるみのふるさと教育を展開する。 ・陶芸では1年生が抹茶茶碗の絵付け「マイ茶碗作り」、2年生が手捻りの「皿作り」、3年生が野焼きの「シーサー作り」、4年生が志野焼きの「器作り」、5年生が2色粘土の「皿作り」、6年生が「花瓶作り」と発達段階に応じた題材と手法で取り組む。また3年生は茶の湯、4年生は志野焼きの歴史や文化等について地の利を活かし総合的な学習の時間で理解を一層深める。 ・全校が1年生時に絵付けした「マイ茶碗」でお茶会を開催し、お手前の作法から「お茶の心」を学ぶ。低学年は高学年からお茶を点ててもらい中学年は互いにお茶を点て合う等、異学年でも交流する。また保護者や地域の方々を招いてお茶を点ててもてなす。更に公民館祭りや講座でボランティアとしてお茶を振る舞う等、学校内外で創意工夫を凝らした体験活動を展開している。 <p>3 地域住民との関わり、地域社会への貢献の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全校児童や教職員による「東明小陶芸展」を開催したり、お世話になっている方々を茶の湯でもてなしたりする。また秋には支援隊(70名)の皆様を招いて全校で「感謝の会」を開催した。 ・公民館祭り「キッズ茶道」に多くの児童がスタッフとなり地域の一員として祭りを盛り上げた。 ・PTAでは茶道講座を開催し家庭でも親子が共に茶の湯を楽しもうとする動きが始まった。 ・今年度は「地域に感謝と笑顔を」を合い言葉に、校区の中学校・幼稚園・保育園に「友情の花瓶」、公民館に「笑顔の花瓶」と名付けた6年生手作り花瓶を贈呈した。またより多くの方にふるさと教育を理解して頂く為に公民館をお借りして「出張！子ども陶芸展」を開催した。更に6年生は高齢者福祉施設「福寿苑」を訪問し「おもてなしの心」を活かした交流会を行った。 <p>4 活動による児童生徒の変容（伸長・成長等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「東明小の自慢は『陶芸とお茶！』『なかよし』『地域の人が優しい』」と、誇らしげに語る姿からも20年以上に渡る地域ぐるみのふるさと教育の実践は、地域への理解と愛着を深め、そこに暮らす人々（先人含む）への尊敬と感謝の心を着実に育んでいる。9割近い児童が「地域の行事に参加している」と答える程、児童にとって地域はより身近で魅力溢れる場であると同時に、自らの社会性（思いやりの心や規範意識等）を育む場となっている。本校のふるさと教育は、学年や男女の差を越えた温かい絆で結ばれた和やかで落ち着きある学校風土を醸成し、現在不登校児童ゼロ、いじめ問題激減につながる大きな力として生きて働いている。 						